

古文書整理 地域資源としての古文書を考える

静岡文化芸術大学 文化政策学部 水谷悟ゼミ・西田かほるゼミ

指導教員：水谷悟 西田かほる

参加学生：首藤結香 船附藍 増田美咲 松島萌夏 村田さくら 渡邊香音
青山杏 井上愛心 大石桃子 大橋怜奈 加藤綾乃 川口未紗樹
竹下緋莉 辻未空 彦坂奈波

1 要約

本研究は静岡県榛原郡川根本町千頭の殿岡家が所蔵する 7,000 点余にのぼる未整理文書の整理・調査を継続的に行うものである。

殿岡家文書は、殿岡嗽石（1851—1933）によって蓄積された文書群を主とする。嗽石は千頭村戸長・榛原郡会議員・静岡県会議員を歴任したほか、山林経営、茶業組合、大井川鐵道の敷設、地域郵便局の開設・運営に関わりながら地域青年の指導に努めた名望家であった。本文書群は家史料としての価値だけではなく、当該地域の歴史・産業・生活を考える上で重要な「公文書」的性格を有している。本文書群を調査整理し広く利用できる状態にすることで、古文書を文化遺産として後代に伝えるとともに、地域の方々と連携し古文書に記された情報や知見を地域資源として活用してもらうための基礎をつくる。

2 研究の目的

川根本町千頭の殿岡家が所蔵する古文書の調査を継続的に行い、概要目録を作成することで文書の散逸を防ぎ、地域資源としての古文書の活用方法を探ることを目的とする。

3 研究の内容

殿岡家には、現在、茶箱類 41 箱とタンスなどに収納された未整理文書が約 7,000 点余ある。これらの文書を誰でも利用できるように、史料目録を作成する。目録作成にあたっては、収納単位ごとに簡単な保管情報の記録を作成した上で、文書を 1 点ごとに番号を付した中性紙封筒へ収納する。文書の内容や年月日・作成者・宛先などの情報を読み取って目録用紙に記入し、その後、目録の情報をデータ入力し、検索が可能な形にする。調査に際しては、卒業生や地域の学芸員などの協力を得つつ実施する。

調査をすすめる中で、殿岡家文書の分析をおこなう。調査中において注目すべき史料を確認しつつ、各人が興味を持った文書の翻刻や報告を行う機会を設ける。

4 研究の成果

(1) 当初の計画

殿岡家が所蔵する未整理文書の現状記録を行い、それらを中性紙封筒へ収納して保存をはかる

とともに、文書の内容や年月日・作成者などの情報を目録化する。また、学生各々が興味を持った史料の読解をすすめ地域理解を深める。調査は水谷ゼミ(日本近代史ゼミ)・西田ゼミ(日本近世史ゼミ)の学生15名を中心に行う。9月に川根本町で2泊3日の合宿調査を行うほか、史料の一部を大学に借り出し、毎月1回土曜日を利用して調査をおこなう予定である。12月上旬には、川根本町において史料の展示会と報告会を実施し、調査成果の地域還元をはかる。また、学生と所蔵者および地域の方々が話し合う機会を設け、殿岡家文書だけではなく地域全体の古文書の整理・保管と活用について考える。

(2) 実際の内容

A: 予定通り

大学に史料を借用して行った調査は、(昨年2月以降分)2月17日、6月15日、7月13日、11月16日、1月25日の計5日であった。10月以降は、ゼミ終了後の時間を利用してゼミごとに調査および報告会の準備などを行った。川根本町千頭での現地合宿調査は、3月2~4日、9月14~16日、12月14~16日の計9日間実施した。

調査対象の史料は収納場所・収納単位ごとに番号を付しており(A-1~5、B-1~41、C-1)、今年度はそのうちB-12、25、34(昨年度からの継続)、35~41、Cの調査を実施し、1,900点ほどの目録を作成した。

12月15日には川根本町総合支所において、地域の方々に向けた「殿岡家文書からみる近代の川根」(主催:静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター・駿遠三歴史資料調査会・川根本町)をおこなった。

報告では、学生1名が司会をするとともに、学生2名が「殿岡漱石について」と題し、殿岡家文書調査の概要説明と殿岡漱石の事績を紹介した。このほか、教員・学外協力者4名が報告を行った。

また、報告会に合わせ、15日から16日午前中にかけて、川根本町総合支所ロビーにおいて展示会を実施した。展示は報告会の内容にそった構成とし、文書をはじめとする殿岡家の所蔵品を展示した。

千年の学校 公開講座

殿岡家文書からみる近代の川根

会場 川根本町役場総合支所 2階会議室・ロビー
(川根本町千頭1183-1)

報告会 2024年12月15日(日) 13:00-16:00

- 「殿岡漱石について」 青山杏・竹下絆莉(静岡文化芸術大学)
- 「近代の万国博覧会と川根茶」吉野亜湖(静岡大学非常勤講師)
- 「平田寺の今村茂兵衛顕彰「製茶碑」
—今村茂兵衛・山本長右衛門とヘリヤ商会—
菊地悠介(川崎市市民ミュージアム)
- 「日清戦争と千頭—殿岡漱石宛て書簡集から—
岡村龍男(豊橋市図書館)
- 「日露戦後における日英水電事業と殿岡漱石」
水谷 悟(静岡文化芸術大学)

展示会 2024年12月15日(日) 9:00-17:00
16日(月) 9:00-13:00

***いずれも申込不要・参加無料**

主催 静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター 駿遠三歴史資料調査会 川根本町
協力 川根本町史研究会

問い合わせ: 川根本町社会教育課 TEL 0547-58-7080

【千年の学校とは】
川根本町全体をキャンパスと捉え、町の歴史や自然などを町民が学び知ることで、町に誇りや自信を持ち、町民が主体となった地域活動やまちづくりに繋げることを目的に実施しています。

報告会



報告「殿岡漱石について」(青山・竹下)



報告会場の様子

展示会場



(3) 実績・成果と課題

昨年度コンソーシアム報告以降（2024年2月）に作成した目録は、約1,900点であった。各単位の点数は下記の通りである。なお、文書は袋に入っていたり束ねられていたりしているため、枝番号まで含めると（ ）内の点数となる。

B-12-1~69 (130点)、B-25-1~169 (183点)、B-34-1-1~49 (175点)・B-34-2-1~45 (249点)・B-34-3-1~62 (94点)、B-35-1~24 (54点)、B-36-1~68 (137点)、B-37-1~13 (411点)、B-38-1~30 (83点)、B-39-1~202 (212点)、B-40-1~25 (46点)、B-41-1~22 (79点)、C-1~27 (166点)。

今回調査を行った史料としては、書画掛軸類、林業関係雑誌（昭和期）、仏教雑誌関係（昭和期）、諸地図（明治～大正）、山林関係書簡、川根茶に関する書簡などが多かった。殿岡漱石作の「和讃」などもあり、殿岡家の学芸・文芸活動に関するものが主であった。

2019年に当初予定していた調査対象を全て終え、8,400点余りの目録を作成することができた。



9月現地調査風景

12月15日に実施した報告会では、地域の方々45名の参加を得た（別に関係者16名参加）。川根本町が実施したアンケートでは、「地元の古文書などを使って、その地域の歴史を地元の人に対して成果を還元することの意義を改めて感じました」といった意見や、報告会の継続を求める意見もあった。若干ではあるものの地域への調査成果の還元を行うことができ、地域資源としての古文書の活用方法を探るきっかけができた。

(4) 今後の改善点や対策

殿岡家文書調査は2019年度から6年間にわたり実施してきた。当初予定していた史料の調査については終わることができたが、目録のチェック作業や調査研究については今後も継続して行う予定である。その際、これまで以上に、所蔵者、地域との連携をはかっていきたい。

5 課題提出者・地域への提言

所蔵者や地域の協力が、このような調査活動を支えてくださっていることを実感し、深く感謝いたします。地域に残る古文書の調査活動が、地域全体の歴史史料の保存・活用につながるように考えていきたいと思っておりますので、今後とも継続的な取り組みをお願いします。

6 課題提出者・地域からの評価

本年度は新たに約1,900点もの文書の整理および目録データの作成をいただいたとのこと感謝しております。

本年度は、調査報告会と並行して展示会を開催していただきました。関係者でないかぎり、本物の史料を目にする機会はほとんどないため、貴重な場を作っていただきました。作成していただいた解説版をじっくりと読みながら熱心に観覧されている姿が多く見られました。

報告会では、満員の会場で堂々と発表され、参加者からもっと聞きたいとの感想が聞かれるほど充実した報告会となりました。調査のみならず、地域の歴史を学ぶ機会を提供いただき、町にとって有意義な活動を継続して実施していただいておりますこと感謝しております。

(川根本町教育委員会社会教育課)